

令和 5・6 年度の審議テーマについて  
ー特に子ども・家庭の課題の観点からー

平戸ルリ子（東京家政大学）

- 1 子どもをめぐる社会福祉法制の動きー年齢によらない区切り
  - ・令和 5 年 4 月より「こども基本法」が施行
  - ・この中で「こども」とは「心身の発達の過程にある者」と規定
  - ・従来の年齢や学年で区切るのではなく、個々の状況に合わせた考え方や対応を期待
- 2 不登校問題への考え方や対応ー板橋区の特徴と目指す方向
  - 1) 今までの全国的な対応ー学校中心の対応
    - 不登校児童、生徒が、いかに学校に通えるかという対処療法的考え方
    - 不登校の原因が主に学校内にあると思われる場合の対応の検討（いじめ問題など）
  - 2) 板橋区の令和 4 年度までの対応と令和 5 年度に向けての方向性
    - 不登校の背景を学校に加え、子ども自身や家庭など多様な視点から捉えていこうという考え方
    - 加えて、学校だけでない、子どもたちが生き生きと過ごせる魅力ある居場所作りを目指す。
    - 将来に向けてのあらゆる機会（チャンス）を増やす。
- 3 令和 5・6 年度の支援の板橋区の在り方
  - 1) 子どもの行動の背景にある課題の正確な把握ーB P S モデルからの把握など
    - ・子どもの問題は、子ども自身が抱える生理的問題、心理的問題、社会的問題（生育歴、家庭状況、人間関係など）と多様
    - ・行動の背景にある課題に応じた的確なアプローチの必要性
  - 例) 親の生活状況が不安定ー経済的な不安定さ、規則正しい生活が無い文化 など
    - 親は一生懸命ー子ども自身が授業についていけない。コミュニケーション難。魅力を感じない。何となく。 など
  - 2) 複数の専門機関が協力して子ども・家庭の支援に当たる必要性
    - 学校と地域の様々な機関の協働ー児童委員、S S W、子ども家庭総合支援センター、板橋区コミュニティスクールなど
    - （地域の機関の強みは、学校以外の生活状況、その中で見られるニーズがわかること。年齢や学年という先入観で見ない個々の状況把握がしやすいこと）
  - 3) 苦しんでどうにかしたいと考えている当事者に加え、自ら望まない、課題がわからない子ども・家庭（親）が効果的な支援に繋がるためには
    - ・アクセスしやすい情報の発信、敷居の低い申込みの仕組み
    - ・アウトリーチの手法の充実